

やましたの「^{いっさつ}今月の逸冊」

僕が本を読む理由は、考え方・価値観を広げるため。自分の知識や知恵なんてちっぽけなものだ。広げるためには、ある程度情報のインプットが必要だ。それには本が一番投資対効果が高い。たかが1500円程度の投資で、10数倍の価値を得ることがある。それはお金だけではなく、これからの生き方として、人生の糧となる。だから僕は今日も本を読む。



仕事は楽しいかね? / デイル ドーテン (著) ¥1,300円+税

-Amazonより内容紹介-

本書は、将来への希望もなく日々仕事に追われる主人公が、老人のアドバイスに自己変革のアイデアを見いだしていく物語である。それは、唐突に繰り出される老人の言葉とそれを問いただす「私」の会話で展開していく。たとえば老人は「目標を立てるな」という。「私」は、目標がなければ進歩の度合いが測れず、軌道修正もできないと反論する。しかし老人は、斬新なアイデアや商品がなぜ誕生したかを説き明かし、それらが目前の課題に集中した結果であることを指摘。シンプルながら味わいのある1冊である。

◎ 試してみることに、失敗はない！

「試す」ということは、何においても最初の一步です。僕が考える試すポイントは、まず小さく始めること。何かをしようと思って、カタチから入るのもいいんですが、まずは小さく試せないかを考えることが良いでしょう。例えば、サーフィンを始めたいと思いました。まずサーフィンの板を買うのではなく、サーフィンをしている知り合いを探したり、サーフィン体験スクールに行くのが手取り早いでしょう。最近、何を始めるにしても、その敷居がかなり低くなりました。インターネットで探せば、初回体験教室やサーフィンスクール、サークルなどがあり、他にも本や専門誌があるので情報はたくさんあります。

経営においても、試すことは非常に重要です。試すとなると、なにか変化しなければいけないと考えがちですが、そんなことはありません。人間は変化が大嫌いです！だからこそ、小さく試して、いつの間にか変化している、というのが理想です。「変わろう、変わろう」とプレッシャーをかけるのは精神的に良くありません。「人間は変わるものだ」と意識していれば大丈夫です^^

ここで皆さんに質問ですが、「10年前に今現在のご自分の状況を想像できましたか？」 たぶん、ほとんどの方が10年前の想像以上に成長されていると思います。10年前の自分の想像できる範囲なんてそんなものです。

完璧というものは世の中にありません。斎藤一人さんも言っています。「人間のすることは100点満点中、78点が最高だ。」と。不完壁主義で試してみるのが良いのでしょうか！

【気づきの逸文】

- ▶ 人々は、したくもない仕事をし、同時にそれを失うことを恐れているんだ
- ▶ 目標を設定すると、自己管理が出来ているような気がするものだ
- ▶ 明日は今日と違う自分になる。それは、試すことを続けなければいけないということ
- ▶ 人は違うものになって初めてより良くなれる
- ▶ 人は変化が大嫌いだが、試してみることは大好きなんだ
- ▶ 新しいアイデアというのは、新しい場所に置かれた古いアイデアなんだ
- ▶ 完璧とは、ダメになる過程の第一段階だ